

郷音キ、

No. 98

〒590-0959

日本キリスト教団 堺川尻教会

堺市堺区大町西三丁一、十三

☎〇七二・二三三・三三三

「ペトロは牢に入れられていた。教会では彼のために熱心な祈りが神にささげられていた。」

(使徒言行録二二章五節)

右の聖句で、教会は熱心な祈りを神にささげています。この祈りには、「感謝」と「喜び」が伴っていたと思われます。

新約聖書テサロニケの信徒への手紙一の第五章に、こういう御言葉があります。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」この御言葉は、「喜び」と「祈り」と「感謝」がワンセットであることを教えています。キリスト教会の「祈り」には、必ず「感謝」と「喜び」が伴うということなのです。

冒頭の聖句で教会が祈ったときも、そうだったに違いないのです。

このとき、目に見える状況は最悪でした。ヘロデ王が教会に迫害の手を伸ばし、皆が慕う使徒ヤコブが剣で殺されました。ヤコブの死は、教会の人々にとつて大きな悲しみだったでしょう。ヘロデ王はさらに使徒ペトロも捕らえて牢に入れ、ペトロは間もなく殺されよ

感謝と喜びの祈り

使徒言行録二二章一〜二五節

塚本一正牧師

うとしています。こののちには、自分たちにも迫害の手が伸ばされるでしょう。まさに、このときの目に見える状況は最悪でした。

その中で、教会では捕らえられたペトロのために熱心な祈りが神にささげられました。そのときその祈りには、「感謝」と「喜び」が伴っていたに違いないのです。どんなに悪い状況の中になされる祈りでも、教会の祈りには必ず神への「感謝」と「喜び」が伴うから

です。

なぜ、大きな悲しみや悩みの中になされる祈りにも「感謝」と「喜び」が伴うのでしょうか。それは、教会が主イエス・キリストを信じているからです。主イエス・キリストは、神の愛と救いの確かな保証なのです。

ヨハネによる福音書第三章一六節がこう語るとおりです。「神は、その独り子をお与えになつたほどに、世を愛された。独り子を信じ

る者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」ローマの信徒への手紙第八章三五節以下にはこうあります。「だが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができません。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。…わたしは確信しています。死も、命も、…他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによつて示された神の愛から、わたしたちを引き離す

ことはできないのです。」

教会は、聖書がこう語る神の愛を信じているから、どんな時にも、感謝と喜びをもって神に祈るのです。たとえどんなに大きな悲しみ、苦しみ、危機の中にあつても、それらのものが自分たちをキリストに示された神の愛から引き離すことは決してできず、キリストが最後にはもつともよいことをしてくださることを信じているからなのです。

私たちはこのことを心に留めたのです。私たちは、祈りが暗くなつてしまふことがあるのではないのでしょうか。世界ではこしばらく明るいニュースがありません。今のように世の中が暗いときや、自分が試練の中にあるとき、祈りも暗くなつてしまふかもしれません。しかしそのときにも、私たちは救い主イエス・キリストを見上げて、神への感謝を口にしたのです。キリストがいつも共にいてくださる喜びをもって、神に祈りたいのです。そのとき、祈りは聴かれます。使徒言行録第二章はそのことを教えているのです。